授業コード	科目名	助産管理学			担当教員	小西清美、桑江喜代子 伊志嶺悦子
助 122					E-mail	konishi@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	通年	6	新研 419	月：5 限、金：5 限	

１．授業の概要

助産師は安全で快適に女性、子どもとその家族が妊娠・出産・育児期を過ごせるように助産ケアを提供する役割がある。本科目では、助産業務の管理および助産所の運営に必要な管理の基本とマネジメントを理解し、助産師業務を評価・調整する基礎的な知識を修得する。助産所運営ガイドライン、医療安全対策の実際を理解し、チーム医療や施設と地域連携における助産師の役割を考察する。

２．到達目標

1. 助産業務管理の基本とマネジメントを理解する。
2. 助産業務遂行に関する法令について理解する。
3. 病院施設における助産業務管理の実際について理解する。
4. 安全管理対策（リスクマネジメント・感染対策・防災）を理解する。
5. 助産所における助産業務管理を理解する。
6. 助産所の特徴や経営の実際を理解する。
7. 助産所と病院における助産業務管理の方法を述べることができる。
8. 周産期医療システムの実際について理解し、チーム医療や施設と地域の連携について考察ができる。

３．授業計画と内容

第 1 回　ガイダンス、助産管理学とは　助産管理とマネジメント　活用できる理論
第 2 回　助産管理の概念、助産と医療経済
第 3 回　助産業務ガイドライン、関連法規と助産師の義務･責任
第 4 回　関連法規と助産師の義務･責任（事例検討・グループワーク）
　　周産期の医療事故とリスクマネージメント、産科における医療事故、法的責務
第 5 回　病院における助産業務管理（周産期管理システムと助産業務管理）
　　新生児集中治療室　母体搬送システム　オープンシステムなど
第 6 回　病院における助産業務管理(人材育成、労務管理、外来管理、院内助産システムについて)
第 7 回　病院における助産業務管理(リスクマネジメントの基本、産科における医療事故、法的責務
　　感染対策・安全管理など)
第 8 回　病院における助産業務管理(地域との連携、書類管理、財務管理、業務の質管理など)
第 9 回　災害時の対応と助産ケア
第 10 回　助産所とは
第 11 回　助産所における業務管理・運営（助産業務とガイドラインに基づく運営管理、医療安全）
第 12 回　助産所における経営（助産所の特徴や経営の実際、開業に関する法規、地域連携など）
第 13-14 回　助産と経営(沖縄県未来センターの開設と実際、助産所の環境･設備･備品など)
第 15 回　助産所開設案（グループワーク）発表、まとめ
第 16 回　期末試験

４．テキスト・参考文献

『助産学講座１０　助産管理』我部山キヨ子他編　（医学書院）

『助産業務ガイドライン』（日本助産師会）、『助産業務要覧第 2 版基礎編・実践編』（日本看護協会出版会） 『助産師基礎教育テキスト 第 3 巻 周産期における医療の質と安全』 成田伸編 （日本看護協会出版会 ） この他の参考図書は、随時紹介する。
５．準備学習
予習をして授業に臨むこと。
６．成績評価の方法
・筆記試験（70 点） 演習・ディスカッション貢献度（30 点） 合計 100 点
７．履修の条件 ：特になし
８．その他 ：特になし

授業コード	科目名	国際母子保健			担当教員	阿部正子、横川裕美子 橋本麻由美（学外）
助 123						
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	通年	6	新研 423	月曜日 6 限（teams でも可）	

１．授業の概要

世界の母子保健の現状と課題を国や地域の社会状況、文化の違いとともに理解する。国際母子保健に関わる国際機関、政府関係機関、JICA、NGO の役割および助産分野における国際協力の在り方について学習する。開発途上国や在日外国人など母子を取り巻く地域社会の環境・健康問題と助産師の役割、使命について国際的な視野から学ぶ。また、文化、価値観を踏まえた国際活動の具体例を通して検討する。

*授業形態（遠隔授業または対面授業）等、予定を大きく変更する場合は事前に周知する。

２．到達目標

１．　開発途上国や先進国における母子保健の現状を統計データから説明できる

２．　国内・国外での国際協力活動の実際を知り、文化を尊重した保健活動や助産の在り方を考察できる

３．　国際保健医療プロジェクトの基本的概念を説明できる

４．　開発途上国における母子保健のニーズと助産師の役割・活動を関連づけて説明できる

３．授業計画と内容

第 1 回　　国際的な母子保健の現状：①母子保健統計、②社会情勢、③文化的背景　（阿部）

第 2 回　　文化背景を尊重した看護ケア理論　　（横川）

第 3 回　　在日外国人の母子保健　　（横川）

第 4 回　　国際母子保健の潮流と動向①　　（橋本）

第 5 回　　国際母子保健の潮流と動向②　　（橋本）

第 6 回　　開発途上国における助産活動の展開①（橋本）

第 7 回　　開発途上国における助産活動の展開②（橋本）

第 8 回　　まとめ：①助産師による国際活動の事例、②各自の将来の国際活動自己イメージ　（阿部）

４．テキスト・参考文献

助産学講座 9　地域母子保健・国際母子保健，医学書院

＊参考文献については講義時提示する

５．準備学習

事前学習：授業計画の内容をもとに、各自自習した上で授業に臨むこと。

事後学習：配布資料を復習する。

６．成績評価の方法

１）クラスへの参加度（授業へのコミットメント、問題発見、プレゼンテーション等）30 点

２）課題レポート 70 点　　合計 100 点

７．履修の条件

特になし

８．その他

授業日の詳細は授業時に説明する。

授業コード	科目名	助産学研究			担当教員	小西清美、阿部正子 長嶺絵里子、大浦早智、
助 124					E-mail	konishi@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	通年	6	新研 419	月 5 限、水 1 限	

１．授業の概要

助産師が日常、経験や慣習的に行っているケアの効果のエビデンスについて、文献から収集し、意図的で効果的な助産実践につなげるための研究的視点を修得する。また継続事例に行った援助を研究的視点で考察を深めるプロセスについて学習する。研究は、研究領域の文献レビュー、テーマの選択、研究目的、概念枠組みの明確化、研究計画の立案、研究方法の選択、テータ収集、結果の分析、考察など、研究のプロセスに基づき実施し、論文を作成する。また、研究発表を実施し、他者の研究成果を聞くことによりEBMに基づいた助産実践の重要性を理解する。

２．到達目標

1)周産期に関連した文献検討を通じて、ケアのエビデンスや知見を得る。
2)研究の実際を通して、ケアのエビデンスや知見を得る。
３)研究のプロセスをたどることができる。
① 事例研究の意義と研究方法について理解する。
② 文献クリティークの視点を述べることができる。
③ 分娩期を中心とした助産実践を研究的視点で多角的に分析・解釈できる。
④ 研究論文が作成できる。
４）ケアの妥当性・課題を明確にできる。

３．授業計画と内容

1－10 回では、①周産期に関連した文献検討を通じて、ケアのエビデンスや知見を得る。②文献を実際にクリティークすることで、研究活動における文献の活用に直接的に役立て、文献を批判的に読むということについて理解を深める。③研究の基礎的な理論としての量的研究、質的研究を再学習し、助産実践の改善・向上を図るための基礎学習としたい。研究方法では、研究のプロセスを理解し、研究計画書作成として、個人で助産領域の関心あるテーマを考え、研究方法をイメージし研究の可能性を考えていく。この学習を基礎として 11 回以降は、助産学研究の実際では、受け持ちをした継続事例の助産過程を振り返り、助産実践上の問題点・課題を明確にし、成果を実践に役立てる事例研究、助産ケアのエビデンスに関する文献的研究を実施し、研究的視点で考察を深めるプロセスについて学習する。

第 1 回　ガイダンス：助産師と研究、助産師が活用できるエビデンス、推薦図書、
　　オフィスアワーの活用法等、論文作成にあたっての説明
第 2 回　文献検索・文献検討（図書館の活用法）
第 3 回　量的研究のプロセス
第 4 回　量的研究と統計的解析
第 5 回　質的研究、事例研究（阿部）
第 6 回　量的研究：文献クリティーク
第 7 回　質的研究：：文献クリティーク（阿部）
第 8-9 回　文献検討(英文抄読)：(阿部)
　　周産期のケアやウィメンズヘルスに関連した海外の文献検討を通じて、

ケアのエビデンスや知見を得る。 第 10 回　事例研究および文献的研究に関する研究計画書作成、抄録作成・ 発表に向けて 第 11-20 回　事例研究・文献的研究の論文作成 ・事例研究は、受け持ち継続事例を通して、複雑で多くの要因を含む過程を扱い、その全体を扱うことを強調する立場と、特定の部分を切り取って扱う場合がある。その程度は変わっても、事例研究においては、個別事例を具体的に研究しつつも、そこから一般性を抽出することが重要であり、そこに向けて研究的視点で考察し、論文をまとめる。 ・文献的研究は、多数の文献レビューを通して、研究的視点で論文をまとめる。 第 21-22 回　助産学研究の発表会 第 23 回　まとめ、ディスカッション、評価、全体の振返り
４．テキスト・参考文献
我部山キヨ子他編「助産学概論 第5 版」（助産学講座1）、医学書院. この他の参考図書は、随時紹介する。
５．準備学習
文献検討では、必ず文献を読み、課題を提出する。
６．成績評価の方法
・論文 80%　文献検討、文献発表、授業に対する貢献度 20%　合計 100 点
７．履修の条件：特になし　８．その他　3 月に成果を発表する。